

統合場所についての考え方

□ 「千葉市学校適正配置実施方針」 （平成19年10月策定）

- Ⅲ 統合に伴う教育環境の整備
- 2 学校施設・設備の整備

①施設・設備面において、機能的に新設校と同等程度の整備を実施する。
②大規模改修を基本として、リニューアルを実施する。
（教室のリニューアル、エレベーターの設置等）
③耐用年数等により、大規模改修では対応できない校舎については、改築を検討する。

□ 統合場所の選定実績 ※特別支援学級の校舎移動（□は25年1月現在の場所）

旧校舎 → 仮校舎 → 本校舎（24年度在籍数）

- 1 真砂中学校（真砂一中・二中統合校）

※ 特別支援 二中 → 二中 → 一中（4学級31名）

統合場所 旧真砂一中

選定理由 ①隣接する小学校跡施設（旧真砂二小の校庭・体育館）を活用できる。
②校庭が整備され、水はけが良い。
- 2 真砂東小学校（真砂一小・四小統合校）

※ 特別支援 四小 → 四小 → 二中（3学級21名）

統合場所 旧真砂二中

選定理由 ①旧真砂一小と四小の間にあり、どちらからも通学が容易である。
②体育館が広く、地域活動にも至便である。
- 3 真砂西小学校（真砂二小・三小統合校）

※ 特別支援 三小 → 二小 → 三小（1学級1名）

統合場所 旧真砂三小

選定理由 校舎施設がすでに改修済みの箇所が多く、きれいである。
- 4 高洲小学校（高洲一小・二小統合校）

※ 特別支援 二小 → 二小 → 一小（1学級6名）

統合場所 旧高洲一小

選定理由 高洲地域の学校配置のバランスを重視
※旧高洲一小と二小は全く同じ校舎の形状と校庭の状況
- 5 高浜海浜小学校（高浜二小・三小統合校）

※ 特別支援 三小 → 二小 → 三小（1学級6名）

統合場所 旧高浜三小

選定理由 ①校舎の見通しがよく、職員室・校長室から校庭を見渡すことができ、安全性が高い。
②校舎施設が新基準で建てられており、耐震性が高い。
③廊下が広く、明るい。
④校庭が整備され、水はけが良い。

※選定の考え方

- ・通学環境（距離や安全性）や学校施設状況（校舎・校庭の形状、教室数等）など「子どものたちの教育環境」の視点から検討する。
- ・地域における学校配置のバランスや地域コミュニティとの整合性等を勘案する。
- ・財政的な観点から既存の学校施設を有効活用する。

□ 花見川地区の統合場所についての意見等（第7～10回の協議会から）

＜小学校＞

第一小	第二小
○柏井小地区を含めると学校配置のバランスがよい。 ○避難場所を考えた場合、第一小を残した方がよい。 ○特別支援学級がそのまま存続することができ、環境が変わることによる精神的な負担が少なくなる。 ○通学距離、通学時間等を考えた場合、特別支援学級の子どもたちにとっては第一小で「居ながら施工」で行うのがよい。	○地理的に団地のまん中に近い。 ○第一小の児童は大通りではなく、団地内を通して通学できるので安全である。 ○車の通行量が少なく事故の心配がない。 ○現在、第二小の子どもたちは、第一中の敷地を通してよいという許可があるため、中学校の先生方にも顔を知ってもらえるという効果がある。 ○耐震補強が行われている校舎がある。 ＜中学校の統合場所が第一中の場合＞ ○災害が発生した時に、中学校の兄弟が近くにいた方が安全確認や協力体制が取りやすい。保護者への引き渡しもしやすい。 ○小中一貫校や小中連携教育が図られやすい。 （いろいろな情報が共有できる。小中合同の新しい教育活動の提案ができる。）